

173 漫画の始まり（2023 年 7 月 4 日）

フランスは、日本以外で最も多くの日本の漫画が読まれている国だと言われています。フランス語に訳された日本の漫画の数の多さには、いつも驚かされます。今や日本文化を代表するものの一つとなった日本の漫画は、どのように発展してきたのでしょうか。今回は、漫画の始まりについてお話します。

京都にある高山寺には、「鳥獣人物戯画」という絵巻物が伝えられています。12 世紀から 13 世紀の平安時代に作られたと考えられている四巻から成る絵巻物で、国宝に指定されています。絵巻物には画風の異なる絵が描かれていることから、複数の作者が描いた作品が高山寺に集められて、「鳥獣人物戯画」として伝えられているのではないかと考えられています。作者の一人は、当時の高僧で戯画の名手と言われた鳥羽僧正（1053-1140）ではないかと推測されていますが、それを明確に示す資料はありません。作者のみならず、制作された理由など分からないことが多く、謎に満ちた作品です。

「鳥獣人物戯画」は、兎や蛙などの擬人化された動物たちがユーモラスに描かれています。日本の国宝の中で、最も有名で人気のある作品の一つです。保存上の理由から公開される機会が少なく、これが展示される展覧会は、本物を一目見ようと多くの人が訪れて長蛇の列となります。

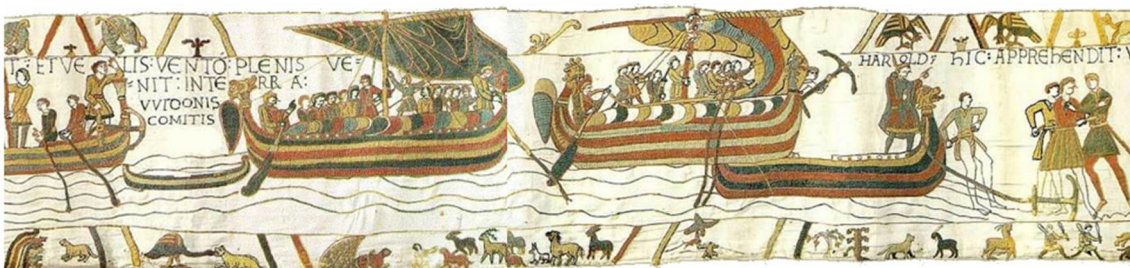


鳥獣人物戯画の一場面（写真上）をご覧ください。右端にいる二羽の兎が、兎と蛙による相撲の取組を応援しています。左に目を移すと、蛙に倒された兎がひっくり返っており、それを見て笑い転げている蛙たちが左端にいます。一つの場面で、右から左へとストーリーが展開しています。擬人化された動物が登場して、滑稽な場面が描かれていることから、鳥獣人物戯画は日本最古の漫画と言われることがあります。鳥獣人物戯画には台詞は書かれていませんが、動物たちに台詞の入った吹き出しを付けたら、漫画のように見えてくるのではないのでしょうか。フランスのバンド・デシネはカラーですが、日本の漫画の多くは白黒で描かれていることから、日本人は、墨で描かれた白黒の鳥獣人物戯画と漫画の類似性を見出しやすいのかもしれません。

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本



別の場面（写真上）をご覧ください。右上には鼻をつまんで水に飛び込もうとする兎、中央には柄杓を持つ兎と猿の背中をさする別の猿、左下には鹿にまたがる兎がいます。川の中で水浴する猿や兎もいます。この場面では、上下様々な位置に動物が配置され、動物たちが描かれている部分の大きさに強弱があります。この場面を見るときに、読み手は視線を上下に動かして、絵を追っていきます。鳥獣人物戯画には、漫画のようなコマはありませんが、1頁が大小様々な大きさのコマで分けられている漫画と共通するものがあるのではないのでしょうか。



一つの作品の中でストーリー展開していくものと言えば、フランスにはバイユーのタペストリー（写真上）があります。1066年のノルマンディー公ギヨーム（後のウィリアム征服王）によるイングランド征服の物語をリネンに刺繍して描いた刺繍画です。左から右へ物語は描かれ、長さは60メートル以上になります。目を奪われる見事な刺繍で歴史物語を描いており、史料的な価値も高い作品です。中世に日本とフランスで、全くスタイルの異なる物語絵が作られたことは、興味深いと思います。

現代の漫画は、明治時代以降の外国からの影響、映画の発明やメディアの発達といった時代の変化とともに発展してきたものですので、鳥獣人物戯画が直接的に現代の漫画を生み出したというわけではありません。しかし、鳥獣人物戯画は、現代の私たちも思わずくすっと笑ってしまう遊び心たっぷりの絵を、中世の人も描いていたことを教えてください。鳥獣人物戯画は、読む人を楽しませてくれる滑稽な物語絵という意味で、漫画の始まりと言えるかもしれません。